

京都帝國大學法學大

經濟論叢

第六卷 第四號

大正七年四月一日發行

論說

『座』ノ研究(再ビ).....

農會瑣言.....

京都ニ於ケル舊時ノ墟屋仲間.....

營業稅ノ課稅標準(二)卷.....

Unto this Last ヲ讀ム(二)卷.....

職工組合論(二).....

我國^{ニ於ケル}營利心ノ起源及發達(三).....

時事問題

米國禁輸問題ノ解剖.....

勸業及農工銀行ノ合併ニ就テ.....

雜錄

大阪市ニ於ケル窮民ノ家計(二).....

續獨逸經濟學界近況(二).....

物價ト割引歩合トノ平行.....

米國ノ戰時海運政策(二)卷.....

米國ノ戰時租稅法(二).....

帝國統一後ノ獨逸ノ植民の活動(上).....

文學博士

法學博士

法學士

法學博士

法學博士

法學士

文學士

法學博士

法學博士

法學博士

文學士

文學士

文學士

文學士

文學士

文學士

文學士

三浦周行

財部靜治

本庄榮治郎

神戸正雄

河上肇

河田嗣郎

銅直勇

神戸正雄

戸田海市

戸田海市

戸田海市

榎田民藏

米田庄太郎

高田保馬

岸本熊太郎

阿部賢一

山本美越乃

我國ニ於ケル營利心ノ起源及ビ其發達 (三)

銅 直 勇

五 金錢蔑視思想ノ發生

カクノ如ク金錢至上思想ノ漸ク盛ナラントスルニ方リ他面コレト相並ビテ名利財産ノ貴ブニ足ラザルヲ力説シテ物質以上更ニ住スベキノ國アルヲ説クモノアルニ至レリ。而シテコノ金錢蔑視思想ノ發生ハ後世營利心ノ發達ニ重大ナル抑制ヲ加フルニ至リシモノナルヲ以ツテ吾人ハ以下少シク之レニ就イテ述ブル所アラントス。

抑々彼ノ物慾ヲ排シ名利ヲ賤ミテ無上涅槃ノ妙境ヲ力説スル佛教ガ我國ニ傳來シタルハ既ニ奈良朝ノ古ニ屬ス。時會々貧富ノ懸隔漸ク生ジ利慾ノ念次第ニ盛ナラントスルニ方リ、不平ト失望ト悲痛ト怨恨ト從ツテ又多カラザルヲ得ザリキ。佛教弘通ノ契機ハ即チココニ於テ存シタルナリ然リトイヘドモ全人格ノ改造ハ決シテ一片ノ思想一日ノ言説ノ能クシ得ベキ所ニアラズ、我國民ガ此ノ幽玄精微ノ佛教々理ヲ體スルニハ尙國民文化ノ長キ教養ト社會進化ノ適當ナル機縁トヲ要シタリキ。故ニ佛教ガ始メテ我國ニ傳來スルヤ先ヅ最モ多ク現世教・祈禱教トシテ迎ヘラレ、佛ハ利益ヲ授クルモノ、信者ハ只コレヲ得ントシテ祈禱供養ヲ捧グルモノタリシナリ。勿論妻子田宅

論 說

我國ニ於ケル營利心ノ起源及ビ其發達 (三)

第六卷 (第四號)

八一

五三三

ヲフリステテ山林精舎ニ入ル「異俗先生」*モ亦ナキニアラザリキ。然レドモ彼ノ日本靈異記ニアグル出家ノ機因ガ多ク家道衰へ身貧ナルニ及ビテノ後ニ存スルヲ思フ時、吾人ハ當時ニ於ケル信仰ノ動機及ビ其ノ態度ノ如何ナリシカラ察スルニ難カラザルナリ。殊ニ貴族ハ身常ニ物質的榮華ニ居、居ナガラニシテ不斷ニ多クノ財ヲ得、貧窮ノ患ナク現世ノ厭フベキナシ。其ノ所願ハ一層高キ官ヲ得、一層多クノ富ヲ得、以ツテ現世ヲ樂ムニアリ。只憂フル所ハソノ享樂主體タル生命ノ喪失疾患ノミ。當時ノ佛教ガ多ク生命ヲ保護シ富ヲ與フル利益教タリシハ亦怪シムニ足ラザルナリ。百濟聖明王ノ始メテ佛像經論等ヲ貢獻スルヤ此法生無邊福徳果報云々トイヒ、馬子ガ崇佛ノ動機亦其ノ壽ヲ延ベントイフニアリキ。藥師如來・彌勒菩薩ハカクテ最モ多ク皇室及ビ貴族ノ信仰ヲ得タリ。

平安朝ニ入ルヤ佛教ハ益々隆盛ニシテ啻ニ貴族階級ノミナラズ一般庶民ノ間ニ更ニ多クノ信仰ヲ繋グニ至リ、彼ノ水・火・刀杖・惡獸・惡蛇・雷電等衆生一切ノ苦痛困厄ヲ救フノ自在力ヲ有スル觀世音菩薩ト、冥府ニ往イテ苦ノ衆生ニ代ルヲ以ツテ其ノ本願トスル地藏菩薩トハ、不幸・困厄・貧窮等悲シキ運命ニ遭遇スルコト最モ多キ下層社會ニ深キ信仰ヲ與ヘタリ。社會ハ漸ク複雑ニ人心ハ彌々纖細ニ趨クニ際シ佛教思想ノ浸潤次第ニ深カラントスルハ當然ノ勢ノミ。然リトイヘドモ物質飽滿ニ對シテ未ダ殆ンド何等ノ經驗ヲ有セザル庶民ニアリテハ、彼等ハ其ノ信ズル觀音菩薩・地藏菩薩等ニ賴リテ一層ノ物質享樂ノ祈願ヲ遂グンコトヲコソ思へ、其ノ信仰ニヨリテ物質蔑視ノ觀念ヲ抱持スルガ如キハ萬々コレナカリシトイフモ決シテ不可ナラズ。只貴族階級ニアリ

* 萬葉集卷五・山上憶良・令反感情歌參照

テハ又聊カコレト其ノ趣ヲ異ニスルモノアリ。

蓋シ平安朝貴族ハ國民ノ感覺及ビ感情ノ藝術化ニ於テ我日本文化史上感謝スベキ多クノ貢獻ヲナシタルモノナリ。然レドモ其ノ生活ガ繊細ナル情念或ハ趣味ニ偏局シタルガ故ニ彼等ガ意志ニ於ケル訓練ハ殆ンド見ルニ足ルモノナカリキ。抑々感覺ト感情トハ心理現象中最モ瞬間的ノモノナリトス。サレバ彼等ガコレニ没頭セルダケ、其ノ權勢・榮華・享樂ノ世界ハ一面又失望・哀愁・怨恨・煩悶ノ世界タリキ。滔々タル當年ノ貴族ガ歡樂ノ裡ニ、猶一道ノ厭世思想ガ脈々トシテ流レ居タルコト決シテ怪シムニ足ラザルナリ。シカモ「一度世ノ中事ワザ繁ク憂キモノ」ト思ヒナガラ猶「タダヒタミチニソムキテモ雲ニノボラス程ノ猶豫^{タユク}ベキヤウナン侍ルベガンナル。ソレニ休ラヒ侍ルナリ。」ト現實ノ執著ヲ離ルルヲ得ザリシハ、啻ニ記者紫式部一人ニ止マラザリシナリ。而カモ此等貴族階級ガ武士階級ノ勃興ニヨツテ次第ニ政治上從ツテ又經濟上ノ勢力ヲ失フニ至ルヤ現實ニ對スル執著ハ愈コ、ニ現實ノ厭離トナリ、名利ニ對スル未練ハ却ツテ遂ニ名利ノ蔑視トナル。加フルニ從來彼等ガ下司^{ダス}ノ者ト卑シミタル商人・土倉・貸上ノ輩ガ汲々只コレ利ヲ追ウテ富ニ誇レルアリ、此等失意ノ貴族中其ノ求メテ得ザルノ隱レ家ヲ名利蔑視ノ思想ニ求メテ纔ニ自ラ慰ムニ至レル者アルハ又自然ノ勢ナリトス。而シテカクノ如キ思想ガ社會的影響ヲ與フルコト最モ大ナル文學ニ表ハサレタルニヨリ、後世深大ナル感化ヲ人心ニ與フルニ至レリ。勿論吾人ハカカル思想ノ創始ヲ單ニ失意ノ貴族階級若シクハ文學ニ歸セントスルモノニアラズ、其ノ根本ニ僧侶ノ努力、佛教思想等ノ影響アルコト亦言ヲ須ヒズトイヘドモ先ヅ便宜上前者ニ就イテ言ヲ爲サン。

*紫式部日記參照

思フニ此ノ種文學ノ代表物トシテ、鴨長明ノ方丈記ト吉田好兼ノ徒然草トアリ。只前者ノ否定ニ急ナル白眼の厭世思想ナルニ反シ、後者ハ稍肯定的ナリ。即チ其ノ思想ハ最モ多クノ老莊思想ト印度思想トノ感化ニヨリ平安朝ノ情念の生活主義ガ一轉捩ヲ受ケタルモノニシテ、其ノ最小限度ノ物質的生活ニ於テ最大限度ノ平和享樂ヲ得ントスル一種特異ノ生活觀ハ徳川時代ニ至リテ最モ廣キ感化ヲ與ヘタリ。徳川初期ノ我日本文學ハ此ノ徒然草ノ影響ニヨツテ生レ出デタリトイフモ不可ナシ。否ソガ單ニ當時ノ俗文學者流ニ讀マレタルニ止ラズ、武士階級ニモ亦一般町人ノ精神ニモ大ナル感化ヲ與ヘタリシナリ。林道春ガ我日本文學中總テノ物語ヲ無教誨訓誡之法トシテ斥ケ獨リ徒然草ヲ擇ビテ其ノ註釋ヲ作リタルガ如キ、又此ノ書ガ實ニ心學道ノ講讀書・教科書トシテ町人階級ノ間ニ教ヘラレタルニ於テ吾人ハ最モ多クノ注意ヲ拂フベキモノナルヲ信ズ。

徒然草ノ記ス所ニヨレバ時空ハ凡テ有限ナリ。時移リ事去リテ隣時モ止ラズ、死ハ刻々ニ迫ル。生命猶恃ムベカラズ況ンヤ外物ヲヤ。人生ノ要ハ常住ニ止ラズ變化ニ住セズ、其ノ念々ヲ安クシテ以ツテ自然ヲ樂シムニアリ。彼レノ往ク國ハ生活・人事・技能・學問等一切ノ諸緣ヲヤメテ只「ヲリフシノ遷リ變ル景色々々」ニ物ノ情ヲ感ズル趣味ノ世界ナリ。故ニ人生必ズシモ多キヲ要セズ、一草一木、一山一水、到ル處ノ自然總テコレ彼ガ淨土タリ。只生命ハ自ラ斷ツベカラズ、故ニ衣食住ト醫藥トノ四者ハ人間生存ノ第一要素トナリ來ル。貧トハ此ノ四者ヲ求メテ得ザルコトニシテ、此ノ四者ヲ缺カザルヲ富メリトシ、四者以外ヲ求メ營ムコトヲ驕トナス。即チ彼ニヨレバ人能ク其ノ生命ヲ保チ得バコレ既ニ富メルナリ。彼レガ當時一般ノ人士ノ欲望漸ク發達シテ

唐物遠物ノ珍品ヲ争ヒ求メ其ノ新ナル嗜慾ノ覺醒ニ多大ノ興趣ヲ樂マントセルヲ見テ、遂ニ我國ニ於ケル封鎖的商業國家主義者ノ陳吳トナレル、亦當然ノ歸結ノミ。彼ノ徳川幕府ガ鎖國主義ノ下ニ禁慾主義ノ政治ヲ行ヘル、其ノ動機ハ他ニ存スルモノコレアリシナランモ其ノ政治哲學ニ至ツテハ二者同一ノ見地ニ立ツモノナリトイフベシ。彼レニ於テハ一木一草猶以ツテ四時朝夕ノ樂ヲ得ルニ十分ナリ、何ゾ無用ノ遠物ヲ外國ニ求ムルノ要アラン。其ノ事ヲ渺ウシ其ノ心ヲ素ニシ其ノ用フル所ヲ簡ニス、コレ彼レニ於テ最上ノ富トナス所ナリ。故ニ爲政ノ要ハ節儉ヲ本トスルニアリ。彼ノ言ヲ假リテ之レヲ言ヘバ只々「世ノ人ノ飢エズ寒カラヌヤウニ世ヲバヲコナハバ」即チ以ツテ充分ナリ。彼ノ生キ過ギヌヤウニ死ナサヌヤウニテフ徳川幕府ノ對農民政策ト符節ヲ合スルガ如クナルヲ注意スベシ。

彼レハカクノ如キ欲望觀、人生觀、生活觀ヨリココニ名利・財産・金錢ノ無用ヲ説イテ曰ク

「名利ニ役ハレテ閑ナル暇ナク一生ヲ苦シムルコソ愚ナレ。財多ケレバ身ヲ護ルニ惑シ。害ヲ實ヒ煩テ招ク媒ナリ。身ノ後ニハ金ヲシテ北斗ヲ支フトモ人ノ爲メニゾ累ハルベキ。愚ナル人ノ目ヲ悦バシムルタノミ又アザキナシ。大ナル車、肥エタル馬、金玉ノ飾モ心アラン人ハウタテ愚ナリトゾ見ルベキ。金ハ山ニステ、玉ハ淵ニナグベシ。利ニ惑フハスグレテ愚ナル人ナリ。」
財ハ畜ニ自己一身ノ煩タルノミナラズ更ニ又骨肉相食ムノ禍根タリ。貯蓄ハ故ニ無用ナルノミナラズ又實ニ罪惡ナリ。

「身死シテ財殘ル事ハ智者ノセザルトコロナリ。コカラヌモノ蓄ヘ置キタルモツタナク、ヨキモノハ心ヲトドメケントハカナシ。コチタク多カル、マシテ口ナシ。我コソエメナドイフモノドモアリテ、アトニ争ヒタルサマ、アジ。後ハ誰ニトコロザスモノアラバ、イケランウチニゾ讓ルベキ。朝夕ナクテカナハザラン物コソアラメ、ソノ外ニ何モ持タデジアラマホシキ。」

更ニ彼ハ財・金錢ト人間ノ欲望トノ關係ヲ述ベテ曰ク、

「ソモソモ人ハ所願ヲ成センガ爲メニ財ヲモ求ム。錢ヲ財トスルコトハ願ヲカナフルガ故ナリ。所願アレドモカナヘズ、錢アレドモ用非ザランハ全ク貧者トオナジ、何チカ樂トセン。コノ性(兼好自身ノ主義ヲ指ス)ハタダ人間ノ望チ絶チテ貧ナ憂フベカラズト聞エタリ。欲チ成シテ樂トセンヨリハ、シカジ財ナカラニハ。癡狂ヲ病ム者水ニ洗ヒテ樂トセンヨリハ病マザランニハシカジ。ココニ至リテハ貧富分ク所ナシ。究竟ハ理即ニヒトシ、大欲ハ無欲ニ似タリ。」

吾人ガココニ最モ注意スベキハ此ノ簡單ナル提言中三個ノ異ナル財ノ觀念ヲ記セルコトコレナリ。一ハ則チ其ノ欲望ヲ充足センガ爲メニ、即チ消費ノタメニ出來得ル限り財ノ獲得蓄積ヲ試ミルモノ。第二ハ則チ一切ノ欲望ヲ否定シテ財ノ獲得及使用ヲ只々生命保存ノ最小限度ニ制限セントスル思想ニシテ、第三ハ實ニコレ利ノタメニ利ヲ求メ、金錢ノタメニ金錢ヲ求ムル金錢至上主義即チコレナリ。第一ハ最モ普通ニ行ハルル觀念ニシテ奈良朝・平安朝ノ貴族及ビ僧侶、鎌倉時代以後戰國時代ニ至ル武士階級ノ觀念ノ如キ何レモコレニ屬ス(勿論貴族階級ノ觀念ト武士階級ノ觀念トニ自ラ異ル所アルハ既ニ述ベタルガ如シ)。第二ノ觀念ハ即チ僧侶及ビ遁世者流ノ正統的觀念ニシテ、ソガ單ナル知識ニアラズシテ人間ノ行爲ヲ規制スル有方ナル思想タルニ至リシハ平安朝末期ヨリニシテ、社會ノ動亂ニ因ツテ漸ク盛トナルニ至レリ。勿論其ノ如實ノ實踐者ニ至ツテハ洵ニ寥々タレドモ、其ノ金錢蔑視ノ思想ハ最モ深キ感銘ヲ人間精神ニ與ヘ、暗々ノ間ニコレヲ支配セントスルモノナリ。徳川時代ノ武士階級ノ理想的財産觀念亦コレニ外ナラズ。(但シ徳川時代ノ武士トイヘドモ、其ノ實行者トシテハ第一觀念ニ從ヘルモノ多ク、或ハ時ニ第二觀念ニ從ヘルモノ、亦決シテ珍シカラズ。)而シテ亦コレ武士階級ガ自己階級存立上ノ利害ヨリ打算シテ一層極端ニ被支配者階級タル農民ニ強制的ニ踐行セシメタル所ナリ。最後第三ニ至ツテハ商

然レニ、要テ以テ、ナリ。關係ノ時代、學ハ、宋ニ至リ、特ニ至リ、儒教ニ變ズ、必ズ、ハニ、テ、當リ、テ、ハ、人、ヲ、述、テ、思、想、國、人、ノ、金、錢、蔑、視、ガ、本、質、也、ト、云、フ、也、

人階級ノ骨髓タルベキ觀念ニシテ鎌倉前後ヨリ商人階級ノ漸ク分化シ來ラントスルト共ニ次第ニ勢力ヲ占メ來レルモノナリトス。而シテ第二・第三兩觀念ハ殆ンド時ヲ同ウシテ勢力ヲ得、兩々相對峙シテ發達スルニ至レルモノナルコトヲ知ルヲ要ス。

吾人ハ以上徒然草ガ後世如何ニ人心ニ影響ヲ及シタルカ、其ノ所説ノ生活觀・欲望觀・金錢觀ノ如何ナルモノナリシカヲ明ニシタリ。然ラバソガ我國ニ於ケル營利衝動ノ發達ニ如何ナル影響ヲ及シタルカ。吾人思フニコレニ消極的ト積極的トノ二方面アリ。消極的影響トハ其ノ金錢蔑視思想ガ營利衝動ノ發達ニ大ナル抑制ヲ與フルニ至レルコトコレナリ。積極的影響トハ其ノ節儉思想、禁慾思想ガ財ノ集積・貯蓄ノ習慣ニ亦少カラザル貢獻ヲナシ以ツテ逆ニ金錢至上主義ノ發達ヲ助ケタルモノアルコトコレナリ。然ル時吾人ハ更ニ進ンデ徒然草ニ最モ大ナル影響ヲ與ヘタル佛教思想ト營利衝動ノ發達トガ如何ナル關係ヲ有スルカラ見ザルベカラズ。勿論徒然草ニ影響ヲ與ヘタル思想トシテ老莊思想モ亦決シテ閑却スルヲ許サズ。然リトイヘドモ佛老二學ハ相通ズル所少カラズ、今其ノ一ヲ述ベテ他ハ姑クココニ説クノ繁ヲナサザラン。

六 佛教ト營利心

佛教ト我國ニ於ケル營利心ノ發達トハ少クトモ三個ノ重要ナル點ニ於テ關係ヲ有ス。即チ其一ハ佛教ノ汎心觀ヨリ必然的ニ生ジ來ル職業觀ニシテ、從來社會ノ最モ下層ノ人民ヲ以ツテ目セラレ來リシ商人其他ノ庶人が其ノ熱烈ナル信仰ニヨツテ始メテ安ジテ勞働ニ服スルヲ得タルコトニシテ、第二・第三ハ佛教ノ欲望觀ガ營利心ノ上ニ加ヘタル積極・消極ノ二影響ナリトス。吾人ハ

先ヅ第一ヨリ略説スベシ。

抑々佛教々理ニハ種々ナル發展アリ、仔細ニコレヲ研究シ來ル時ハ各々相異ル甚ダ渺カラズトイヘドモ其ノ論理的發展ノ極致ハ即チ萬法一如ノ汎心觀ナリ。諸法ハ即チ佛法ニシテ、一切衆生ハ皆佛性ヲ有ス。其ノ職業觀ハ其ノ必然的歸結トシテ生ジ來ル。法華經法師功德品ニ「資生業等皆順正法」トイヘル即チコレナリ。萬法ハ一如、而シテ又皆佛性ヲ有ス。カカルガ故ニ能ク解脫シテ涅槃ノ妙境ニ入ル、必ズシモ僧俗・貴賤・賢愚ヲ擇バザルナリ。鎌倉以後ノ新佛教ハ特ニコノ點ニ於テ最モ特色ヲ有ス。蓋シ佛教ハ鎌倉時代ニ至リテ山林或ハ貴族社會ヲ出デテ廣ク市井羣衆ノ下級社會ニ及ビ、其ノ汎心觀ハ始メテココニ如實社會ニ徹底ヲ得ルニ至リシナリ。而カモ從前ノ佛教ガ主トシテ國家若シクハ個人ノ物質的利益ヲ保護スル爲メノ祈禱教タル觀アリシニ鎌倉新佛教ハ多ク利益・祈禱ヲ排シテ端的ニ人ノ精神ソノモノヲ衝ケリ。人心ガ佛教ノ感化ヲ受クル愈深且切ナラザルヲ得ザルナリ。吾人ハ今左ニ禪宗・一向宗・日蓮宗等ノ始祖ガ職業ニ對シテ如何ノ訓ヲナシタルカヲ見ント欲ス。

道元禪師ハ其ノ著正法眼藏辨道話ニ曰ク、

「佛法ナ會スルコト男女貴賤チエラブベカラズトキコユ。……タダコレココロザシノアリナシニヨルベシ、身ノ在家出家ニハカカハラジ。又フカクコトノ殊劣チロキマフル人オノツカラ信ズルコトアリ。イハンヤ世務ハ佛法チサニトオモヘルモノハタダ世中ニ佛法ナシトノミシリテ佛中ニ世法ナキコトナイマダシラザルナリ。」云々

親鸞亦其ノ唯信鈔文意ニ曰ク*

「自力ノココロナスツトイフハヤウヤウサマザマノ大小聖人・善惡ノ凡夫ノ、ミヅカラカ身チヨシトオモフココロチステ、身チタノマズ、アシキココロチサカシクカヘリミズ、マタヒトチアアシヨシトオモフココロチステ、ヒトスチニ具縛ノ凡夫・原治

* ナホ 歎異鈔・第十三章ヲモ參照スベシ

ノ下類、無碍光佛ノ不可思議ノ普願・廣大智慧ノ名號ヲ信樂スレバ、煩惱ヲ具足シナカラシ無上大涅槃ニイタルナリ。」
日蓮ハ曰ク

「法華ヲ識ル者ハ世法ヲ得可キ歟」(觀心本尊鈔)

「御ミヤツカヒ(仕官)ヲ法華經トナホシメセ。一切世間ノ治生産業ハ皆ナ實相ト相違背セズトハ此ナリ。カヘスガヘス御文ノ心コソナモヒヤラシ候ヘ。」云々(四條金吾返書)

但シ三者中、禪宗・日蓮宗ハ猶其ノ信者ヲ多ク武士ノ中ニ有セリ。而カモ一向宗ハ就中最モ多ク下層勞動的職業者ノ間ニ流布シタリ。蓋シ親鸞ノ説ク所ニヨレバ動物ノ生命ヲ斷ツヲ以ツテ其ノ職業トスル獵師モ、賣買以ツテ營利ニ餘念ナキ商人モ、皆ソノ欲望罪障ヲ有シタルママニテ恰モ氷ノ日光ニ逢ヒテ水トナルガ如ク無碍光佛ノ本願力ニヨツテ自然ニ無上ノ大涅槃ニ到リ得ベシトイフナリ。彼ハカクテ親ヲ肉食妻帯シ、他ヲ呼ブニ同行ヲ以ツテシ非俗非僧ノ生涯ヲ送レリト傳ヘラル。見ヨ一度信仰ノ門ニ入ル、其ノ唯一評價ノ標準ハ只信仰ノ得不得ニアリテ存ス。ソコニ知愚ナク貴賤ナク貧富ナク男女僧俗ノ別アルナシ。カクテ人ハ其ノ信仰ニ安ジテ日々ノ勞動ニ従事シ得ベシ。從來社會ノ下層ニ呻吟シテ呼ブニ「下司」ヲ以ツテセラレシ商人・百姓ハココニ漸ク自家存在ノ價値ヲ知ルニ至リシナリ。然リトイヘドモ此ノ一向宗ガ惡人正機ノ教ナルガ故ニ、從ツテ其ガ罪惡ト利慾ノ念ヲ益々激揚ストイフガ如キハ決シテコレナシ。名利ハ到底離脱スルヲ得ズ、コレ人間心理ノ事實ナリ。シカモコレアルガ故ニ人類ハ能ク解脱シテ成佛スルヲ得ズ。コノ矛盾ノ裡ヨリシテ絶對他力ノ救濟觀ハ生レ出デタルナリ。從ツテ信後ソノ營利心ノ銷磨スル亦必然ノ歸結ナリトス。故ニ此ノ宗教モ亦此ノ點ヨリ論ズル時ハ營利心ノ發達ニ積極的效果ヲ齎シタリトイフヲ得ズ。彼ノ徒然草ニ見エタル一富豪ガ無常ヲ觀ズルコトヲ戒メタルガ如キ、而シテ

後世ノ町人ノ家訓・町人道ノ心得書等ニ此ノ文言ヲ特記スルモノ多キ亦尤ナリトイフベシ。然リトイヘドモ他面又自己ノ生活ト職業トニ何等ノ自信ナク哲學ナカリシ彼等ニ、始メテ自家存在ノ價值ヲ知ラシメ、日々安ジテ勞働ニ從事スルヲ得シメタル點ニ於テハ、鎌倉時代ノ新宗教特ニ一向宗ガ營利心ノ發達ニ與ヘタルノ功ハ決シテ没スベカラザルナリ。

吾人ハ上述ノ如ク佛教ノ形而上學の基礎タルソノ汎心觀ヨリ鎌倉新佛教ノ職業觀ノ生ジ來レルヲ見ダリ。シカモ萬法スベテコレ眞如ナリトセバ我等ハ何故ニ眞理ニ達スルヲ得ザルカ、眞如一元ノ佛教ハココニ於テ斷ズベキノ「欲」ナルモノヲ立テ來ルヲ通常トナス。乃チ萬有ノ肯定ハ更ニ圓環シテ萬有ノ否定ニ入ラザルベカラズ。蓋シ佛教ノ究竟相ハ解脫涅槃ノ境界ナリ。涅槃トハ滅心ナリ、滅諦コレ涅槃ニシテコレニ入ルノ方ハ戒定慧ノ圓滿具足ニアリトナス。シカモ人ハ愛波ニ沈ミ欲海ニ溺レテ此ノ無上覺ニ達スルヲ得ザルナリ。佛教倫理ノ根本ハ實ニコノ無欲ヲ力説スルコトニアリ。カクノ如キ道德觀ノ浸潤ガ人心ヲシテ金錢ヲ賤トシ營利ヲ恥ヅベシトスルノ思想ヲ抱カシムル亦甚ダ深キモノアリ。シカモ欲望ナクンバ消費ナシ。佛教ノ教説ハ多ク名利金錢及び其他ノ世間的欲望ヲ否定ストイヘドモ、コノ少欲無欲ガ節儉・貯蓄ノ慣習ノ成就ニ貢獻スル所多大ナルモノアリ。蓋シ物ヲ節スルニハ先ヅ其ノ心ヲ節セザルベカラズ。而シテアラユル欲望ヲ斷ジテ只金錢欲・營利欲ノミヲ多々益々存養スルコト、コレ財産蓄積ノ喫緊事タリ。吾人ハ即チコノ點ニ於テ亦佛教ガ我國ニ於ケル營利心ノ發達ニ寄與スル所決シテ尠カラザルヲ見ルモノナリ。若シ夫レインスティテューション制度トシテノ佛教ト經濟トノ關係ニ就イテハ先學既ニ研究ヲ公ニセラルルアリ、吾人ココニ論ゼズ。

(未完)